

FRUIT FULL TREE

2014

Vol. 24

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJJUEN

TOPIX

HOJJUEN × FAMILY

CARE MEMO

WELFARE MEMO

HOJJUEN 'S ALBUM

AREA INFORMATION

EDITORIAL NOTE

MORE CROSS

WE ARE VOLUNTEER

SPECIAL SECTION



トピックス

より良い介護サービスを目指して！

豊寿園では、今年度9月より介護サービス相談員事業の受け入れを行っています。

この事業は、北九州市が施設や通所介護事業所といった外部の目が入りにくい介護サービスの現場に介護サービス相談員を派遣し、サービス利用者の話を聞き、相談に応じることで、利用者の疑問や不満、不安の解消を図ることを目的としています。

派遣を受けた事業所においては、第三者である相談員が聞いた利用者の声を改善に結びつけることで、介護サービスの質的な向上を目指すというものです。

また、面会に来られているご家族からの相談にも対応いただけます。

豊寿園には、原田征治さんが毎月来園され、利用者様からの相談に対応いただけます。いただいた内容は、サービス改善の参考とさせていただきます。

原田さんが来園する日程については、入り口のポスターでお知らせしています。



担当の原田征治さん

相談員歴5年目で、これまで介護老健施設や介護療養病床、グループホーム等で活動されてきました。元々は、技術系のお仕事をされていたようですが、ご家族の介護に携わるようになり、介護に興味を持ったのがこの仕事に就いたきっかけだそうです。

今年も行います！家族会主催の勉強会

豊寿園家族会では、毎年、介護等に関する勉強会を開催しています。

今年度は、昨年度好評だった「AEDを用いた救急法」にくわえ、ティルト式車いすの操作方法についても学んでいただく内容で計画されています。

昨年度の勉強会終了後には、参加されたご家族から、「勉強会の後で急変に出くわした時に冷静に対応できました」との感想をいただきました。家族会会員の皆様へは、改めてご案内をお送りいたします。皆さん奮ってご参加ください。

- 開催日時 平成26年11月11日(火)13:30～14:30
- 会場 日赤豊寿園 研修会議室
- 講師 赤十字救急法指導員(豊寿園職員)



昨年度の様子

松ヶ江福祉の郷 合同消防訓練



消防隊による消火訓練の様子

9月13日に、豊寿園のある門司区松ヶ江北校区と、近隣7施設との合同消防訓練を行いました。当日は、豊寿園のお隣、門司障害者地域活動センターから夜間帯に出火したという想定で、入所者の避難誘導を近隣の町内会・福祉施設の職員が応援する手順を確認しました。終了後には、消防隊による消火訓練も行われました。豊寿園は、万一来に備え、近隣の地域の皆さんや福祉施設同士による連携を推進していきます。

入所申し込み 締め切り間近です！

北九州市内の特別養護老人ホームへの入所申し込みは、10月31日が締め切りとなります。

12月1日からの入所待機をご希望の方は急ぎ、希望施設への入所申し込みをお済ませください。

また、6月1日から現在待機されている方につきましても、11月30日まで入所に至らなかった場合には、あらためて更新のお申し込みが必要となります。

更新をご希望の方は、希望されている施設へお問合せをお願いします。



看護大学より学生を受入ました

8月12日に、日本赤十字九州国際看護大学より、学生3名の受け入れを行いました。

学生さんには、特別養護老人ホームでの介護や看護の実際を学んでいただき、先の東日本大震災で介護チームとして現地でも活動してきた、坂根通所介護係長や、荒木生活相談係長等の職員の説明で、現地での活動内容などを学んでいただきました。



学生さんとの記念撮影

あなたと向き合った日々

HOUJUN × Family



父のトイレに付添い、紙パンツを上げてやろうとした私に向かつて「ファイティングポーズをとって来た時にはびっくりして眼が点になりました。」
あの、几帳面でしっかりした父がまさかの症状を繰り返し、食事を食べた直後に「まだ、食べてない」と言われた時には、心の中の「しっかりしてくれ、親父！」といった感情が噴き出して、「違う！さっき食べた！」と、叫んだこともありました。

車の運転をあきらめさせるのに苦労しました。

車の事故が心配でした。免許を更新させないように運転免許試験場へ問い合わせたこともありましたが、「制度上それはできない」と言われ、本人に車の運転を諦めさせるのに苦労しました。
バイクにも乗っていたのでこちらも事故が心配で、代わりに電動自転車を使ってもらっていました。気が付いたら遠方の浜辺まで行っていたこともありましたが、本人は体が元気だったから、よく鎌を持って近くの山に行っていました。家に帰れなくなった時に探しようがないので、GPSを持たせたこともありました。夜中に本人が起きた時、トイレの場所がわからなくなるので、家族がいち早く気づけるようにと音なる装置を自作で設置しましたが、かえって気が休まらなかつたです。

いったい、いつまでこの状況が続くのだろうと、先の見えない介護に不安を感じていました。
先を見通してサービスを調整してくれたことが助かりました。

先を見通してサービスを調整してくれたことが助かりました。

近所に認知症の事を相談できる人がいたので、その人にいろいろと相談していました。
あと、ケアマネジャーさんが、本人の症状の先を見通してデイサービスやショートステイを調整してくれたのが助かりました。
私の定年の時期と重なっていたため、夫婦で理解し、

今回、荒木介護係長のインタビュアーを受けてくださったのは、末村様ご夫妻です。お父様が平成24年から豊寿園に入所されています。そんな末村様に在宅での介護についてお話を聞きました。

頭がモヤモヤする、とよく言っていました。

母が亡くなった後、一人暮らしをしていた父が、平成16年頃から「頭がモヤモヤする」としきりに言うようになりました。テレビのアンテナ線なんかを全部抜いてしまったり、操作が上手くできないことがありました。

今思えば、あれは認知症の症状だったんじゃないかなあと思います。

「おたくどちらっ」と言われた時には目が点になりました。

平成19年にアルツハイマー型認知症と診断を受けました。家族に対して「おたくどちら？」と言ったり、

協力し合って介護することで、誰かが一人で悩みを抱え込まずに済んだんだと思います。

心のわだかまりが今でもなんとなくあります。

平成24年にショートステイを利用していた豊寿園さんから、入所の順番が回ってきたと連絡があり入所しましたが、「もう少し面倒をみてやれなかったか？」と、同居していなかった家族に対して、心のわだかまりが今でも何となくあります。

あれだけ足腰が強かったのに、今では歩くときに身体が前に傾くようになったり、文字が読めなくなったりが徐々に衰えてきているのは感じます。

それでも、家に居る時は険しかった表情が、今は優しくなつたように感じます。今こそ面会時に笑顔で話ができますが、家で介護を続けていたら、とてもじゃないけど優しく接することは難しかったと思います。



末村様ご夫妻
インタビュー中、笑ったり、時には涙ぐみつつも様々なご苦労をお話しくださいました。

介護一口メモ

おしゃれは足元から。自分にあつた靴を履いていますか？

今回はリハビリシューズのご紹介です。自立した生活に欠かせない最も基本的な動作の一つが歩行です。

でも高齢になると、歩くスピードが遅く、小刻みな歩行となり、すり足で歩くという特徴があります。

また、身体状況と疾患の関連により歩行が不安定になりつまづいたり転倒しやすくなります。

そんな時に便利なのが介護靴です。

一言に介護靴と言っても、様々な目的にあわせてたものや素材の物などいろいろとあります。

最近では、普通の靴にしか見えないおしゃれな

タイプや、足の状況に合わせて左右別々のサイズを選べるものなどもあり、選ぶ楽しみが増えています。けれども、足にあつた靴でない靴擦れなどの足のトラブルが起こることがあります。そこで足にあつた靴の選ぶポイントを集めました。



Care Memo

福祉一口メモ

今回は、認知症の専門医への受診についてです。

現在、認知症の診断を受けるための初診にかかる期間が、平均で約9.5ヶ月かかっている事が民間の調査でわかったそうです。
(調査主体… 日本イーライリリー株式会社)

今回アンケートを行い全部で465人の回答を受けた結果、家族が異変に気付いてから、患者本人が受診するまでの期間で「6ヶ月以上」が全体の46.7%を占めていたそうです。また、中には「5年以上」が2.8%、「3年以上5年未満」が6.7%と長期間かかる事もあるそうで全体の平均は9.5ヶ月だったそうです。

また、最初に医療機関を受診した後、「認知症」と確定診断を受けるまでに要した期間の平均は6ヶ月だったそうです。

今回のアンケートにより、患者本人や家族が物忘れなどの異変に気づいても、「まさか認知症になるわけが…」や「自分は大丈夫だから」との思いがあり、医療機関を受診す

る事に抵抗や不安、また家族が判断に迷ったり、患者本人への説得がなかなか出来なかつたりする事も今回の調査でわかったようです。

しかし、認知症の中でも、もっとも多いアルツハイマー型認知症は、投薬で進行を抑える事や、早期診断・治療により、症状の改善につながる可能性もあると言われていいます。その為にも、早めに医療機関を受診して医師より診断を受ける事が重要となります。

認知症を早期に発見する事により、本人だけでなく、認知症を支える家族や、周囲の方々にも、認知症という病気に対しての理解や、認知症の方への対応方法について理解を深める事にもつながります。また、「何だか変だ?」「もしかしたら?」と思いがたつた際には、専門の相談窓口も開設されていますのでお気軽にお問合せください。

○相談窓口

認知症疾患医療センター

〈医療法人財団小倉蒲生病院〉

TEL 093-963-6541

Welfare Memo

夏祭りでご家族と夏のひとときを

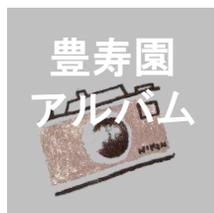


8月には、ご家族を交えて恒例の夏祭りをおこないました。食事や、出店で舌鼓。門司青少年少女合唱団の皆さんによる、素晴らしい歌声で盛り上がりは最高潮に。

芸術の秋！シルバー文化祭に出展しました



9月には、門司区生涯学習センターで開催された「シルバー文化祭」に利用者の皆さんが作った書やクラフトなどを出展。そして、バスハイクを兼ねて会場まで観覧におでかけ。他の展覧作品を見て、来年の作品作りに意欲を燃やします。



豊寿園 アルバム

真夏を一層盛り上げる夏祭りのあとは、初秋の風を感じにおでかけ。普段とは違う話題や、お楽しみのデザート、それぞれの秋の1ページ。

秋の風を感じに園内でピクニック



9月には、園内のあずまやへピクニックに。初秋の風を感じながらの散歩と、お楽しみのデザートを。

門司港レトロへバスハイク



9月には、デイサービスが門司港レトロへバスハイクに出かけました。

門司港名物のバナナを使った、溶けないバナナアイス！？や路上パフォーマンスを楽しんだ後は、これまた名物の跳ね橋の開閉を見物しました。

明治二十二年(1889年)開港した門司港は、日清戦争を経て、九州の玄関口として、石炭の積出港として急速な発展を始めた。大正時代に入り、欧州航路・上海航路が開設されると、横浜、神戸と並び日本三大港となり、昭和に入り、国際港と世界に知られるようになった。門司港周辺は銀行・商社・海運会社が開設され、先端的なオフィス街になり、銀行が立ち並ぶ大通りは“一丁ロンドン”呼ばれていた。街中では、料亭、遊興街などにもぎわい、『三宜楼』もその料亭の一つだ。

『三宜楼』は、昭和6年に建てられた木造三階建ての料亭。佐藤栄作をはじめ出光佐三、高岡虚子、地元の財界人や文化人が集まる社交場として賑わっていた。部屋数は20室あり、欄間、床の間、下地窓など各部屋ごとに異なっている。二階には『百畳敷』と言われる大広間があり、当時の日本でも珍しい、能舞台がある。この場で、芸を楽しみながら大勢の人たちが酒を酌み交わしている華やかな光景が目が浮かぶ。

三階には『俳句の間』と呼ばれ、高岡虚子も関門海峡を一望しながら句を詠んでいたのだろう…。

昭和30年頃に廃業したが、地元の有志が「三宜楼を保存する会」を結成し、北九州市に寄贈。改修工事が終了し平成26年4月より観覧ができるようになった。

現在、一階は料亭となっており、ランチも楽しむことができる。

歴史を堪能しながら食事をしてみてはいかが。

地域ぶらり情報

古き歴史と共存し…



『三宜楼』

北九州市門司区清滝3—6—8

営業時間 10:00~17:00

休館日 月曜日(祝祭日の場合は翌日)

あとがき

9月にテニスの全米オープンで、錦織圭選手が準優勝を飾りました。錦織選手は今年24歳。自分の24歳の頃を振り返っても世界に誇れるものは一つもなかったことを思い返し(今もありませんが)、せめて当時の体型に近づこうと、迫りくる秋の食欲に立ち向かう決心を固めた今日このごろ。

豊寿園では、「夏祭り」、「ご長寿のお祝い」という一大行事を終えて、少し落ち着いた日々を過ごしています。

そんな中でも、その他の行事や地域交流のイベントなど、広報委員が取材すべき催しは目白押し。ブログの更新や広報誌の記事づくりと委員達の仕事はとどまる事を知りません。

表紙には前号に引き続き、若手職員の写真を使用しました。

今号では、介護職員の松山さんを、写真担当の城戸さんお手製のヘッドアクセで飾り、撮影してきました。

そうやって委員達が苦勞して手作りした豊かな樹、皆さんにお楽しみいただければ幸いです。

平成26年度広報委員 森英樹



今回表紙を飾ってくれたのは、1階介護職員の、松山采華(まつやまあやか)さんです。啓知高等学校卒業後に豊寿園に入職し、デイサービスから今年度1階特養棟へ異動となった2年目の若手職員です。緊張しながらも、写真担当の城戸さんと一緒に撮影にでかけてくれました。

縦の棒はあなた、横の棒は私、織りなすマークはいつか誰かを温めうる
かもしれない……。なんてね。

とっ
と
クロス!
計画



警察署員に認知症サポーター養成講座

7月16日、門司警察署で行われた“認知症サポーター養成講座”に、奥水介護課長と荒木生活相談係長が講師として出講しました。

警察署員約80名を対象に、認知症についての説明と、実際の場面で活かしていただけるように、交番に認知症のお年寄りが訪ねてきた場合の対応をロールプレイを通して学んでいただきました。

当日の様子は、テレビ・新聞でも紹介されました。



夏休みに福祉を体験

8月6日、「夏休み福祉体験講座」が豊寿園で開催されました。毎年夏に開催されているこの講座は、門司区社会福祉協議会の主催で毎年開催されており、平成20年からは豊寿園を会場としています。当日は、北九州市門司区内の小中学生40名が参加し、利用者様との交流や車椅子の体験、また、赤十字救急法講習の一環で胸骨圧迫とAEDを使った除細動の体験学習を行いました。

参加した子供さんからは、「AEDは難しい機械ではなく誰でも使えるものだとわかりました。」という感想をいただきました。



八幡西区医生丘の皆さんが見学に

9月8日、八幡西区医生丘校区社会福祉協議会から15名の方々が施設見学に来園されました。

当日は、施設見学・認知症サポーター養成講座・昼食会という内容に参加していただきました。

園内を見学された方からは、「認知症の方を介護する大変さも実感しました。」との感想をいただきました。昼食会では、利用者様と同じ食事をお出し、「病院食と違い味付けがしっかりされていて想像以上に美味しかった」と好評でした。



小学校での車椅子体験

9月18日、北九州市立萩ヶ丘小学校で、4年生の総合学習の一環として、車いすの体験学習が行われ、坂根通所介護係長が講師として出講しました。

初めに、実際に普段車いすで生活されている方からのお話を聞いていただいたあと、学校の敷地内で車いすに乗ったり、押ししたりしながらの体験をしていただきました。

We are volunteer

豊寿園で活躍されているボランティアさんを紹介するコーナーです。今回は、今年のボランティア表彰者についてご紹介します。

豊寿園では、日頃園内で活動いただいているボランティアさんへ、年に一回、9月の「ご長寿のお祝い」式典内で感謝状をお贈りしています。

対象となる方は、活動年数、回数などの基準を満たした方、所属団体会長の推薦を受けられた方などから選考しており、今年度はお二人のボランティアさんに感謝状をお贈りしました。

今年度感謝状を贈らせていただいたのは、共に門司区福祉ボランティア一期会の山本幸子さんと、尾前玲子さんです。

お二人は、平成22年から豊寿園でのボランティアを始められ、毎週のようにお仲間たちと、利用者様のベッドのリネン交換を担ってくださっています。

門司区福祉ボランティア一期会の八坂会長からは、「雨の日も風の日も毎週豊寿園のシーツ交換をされ、利用者の方が快適な生活を送ることができるようにと活動されています。」とご推薦いただきました。

お二人とも、少し緊張された様子で、園長から感謝状をお受け取りになりました。

豊寿園の運営は、職員だけではなく、多くのボランティアさんの支援無くしては成りえません。

これからも、変わらぬご支援とご協力をよろしく願います。



介護の日ご存知ですか？

text by 介護課長 奥水薫

豊寿園の入所者様の多くは認知症という病気を抱えていらっしゃる。記憶を失われ、今何をしたのか、どこにいるのかわからなくなります。進行と共に出来ないことも増えてきます。

きっと悔しい、悲しい気持ちでいっぱいだろうと想像するしかありません。「わからんのよ！！」と泣きながら訴えられ、私も一緒に泣いたこともあります。「あーあんたおったん(いたの)。良かったー。」と頼ってくださることもあります。一瞬一瞬を共に過ごす事、思いに寄り添うことを大切にしたいといつも考えています。

以前に入所されていた方で、次第に笑う事の少なくなってきた方がいました。声を出すことがなくなった。怒ることもなくなった。感情が消えていくのか・・・と思いました。豊寿園は春になると中庭に見事な桜が咲きます。その時期になると入所者様と見物に出るのですが、その笑う事が少なくなった方をお連れすると、「わー綺麗ね・・・。」とポツリと言われました。『えっ？声が出る。出なくなったんじゃない。出さなくなったんだ！』と気づかされました。

その後からは、事あるごとにお声掛けし、何か言葉を発して下さるまでしつこく(?)寄り添うようにしました。徐々に、声が再び出るようになり、好きな歌を口ずさんでくださる

11月11日は介護の日です。これは、“高齢者や障害者等に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施するための日”として、平成20年より制定されています。今回は、この日にちなんで、介護の仕事の醍醐味をまとめてみました。

ようになった時には『ばんざい！』と思いました。

諦めたらそれまで。諦めずに残された機能を引き出す事。それが私たち介護者の役目だと痛感した瞬間でした。

豊寿園では、様々な経験をさせていただいています。100歳を超えた方のお世話をさせていただけることはなかなかできないことですし、何より、認知症の症状で、険しい顔をされていた方が、徐々に笑顔を見せてくださるようになって、一緒に笑いあえた瞬間は介護冥利につきます。

以前、90歳の入所者様の排せつを介助させていただいている時に、「あなたにこんな汚いことをさせてすみませんね。ありがとう。」とその方から手を合わせてくださったことがあります。認知症は重度の方でした。それでも、人に感謝する気持ちは忘れずに持たれて、その気持ちを伝えることができるなんてすばらしいんだろうと思いました。『こちらこそ、ありがとうございます。』と思わず口から出ました。

『ありがとうございます』はお客様に対していう言葉です。世の中に「ありがとう」と言われる仕事はどれだけあるだろう・・・。「ありがとう」をもらえる仕事、介護。こんなすばらしい仕事はないと、いつも誇りに思っています。

ご長寿のお祝い



R e s p e c t - f o r - t h e - A g e d D a y

「ご長寿のお祝いで、103歳の表彰状をお受け取りいただきました。岡谷さま様をご紹介しました。岡谷さまは、明治44年生まれ。この年は、東京の帝国劇場が開場し、九州ではガス会社の開業により生活が豊かになりました。また、現在の九州大学が開校、世界では、ノルウェーの探検家アムンゼンが初めて南極点に到達しました。そんな年にお生まれなられた岡谷様は、デイスリーブのご利用を経て平成26年4月に入所されましたが、毎日のように娘さんが面会に来られ、現在もご壮健に過ごされています。



9月15日 敬老の日にあわせて、豊寿園では、「ご長寿のお祝い」の式典を行いました。多くのご来賓にご臨席いただき、祝いの御年をお迎えになられた方々へ、豊寿園からのお祝い状をお贈りしました。今年、北九市内では、110才の女性が最高齢だったそうです。豊寿園では、今年度、77歳の喜寿を迎えられた方が1名、88歳の米寿を迎えられた方が11名、99歳の白寿を迎えられた方が3名、100歳の百寿を迎えられた方が3名、103歳を迎えられた方が1名いらっしゃいました。当日は、皆さん、普段とは少し違う衣装を身に付けて、晴れの式典に臨まれました。お祝い状には、皆さんがこれまで歩んでこられた年数の重みに対する敬意と、ご壮健のうちにこのよき日をお迎えいただけましたこと、そして何よりもそれを豊寿園で私たちと共に迎えてくださったことへの感謝をたくさんこめ、園長からお一人おひとりにお渡ししました。多くのご家族もご同席いただき、式典終了後には、記念の写真撮影を行いました。念のため、皆さんの笑顔と、うれし涙に包まれた一日となりました。



I want them to be well forever.

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOUJUN



豊 かな 樹

F R U I T F U L L T R E E